

**優動** 豊かな経験・最高の技術  
 ロープ式・油圧式エレベーター設計・製作・据付・保守  
 comfortable space  
**空間**  
**横浜エレベーター株式会社**  
 横浜市中区松影町2-8-6 ☎045(662)1594(代表)  
 http://www.yokohama-elevator.jp/

# 建設工業新聞

一大好評 新聞連載の書籍化完結  
**詳説「公共工事標準請負契約約款」**  
**建設契約管理の理論と実践(上・下)** 草柳俊二 著  
 A5判(上)228頁/(下)276頁  
 価格各2,530円(税込・送料別)  
 発行 建設工業新聞社  
 発売 実光社  
 お申込み: FAX 03(3431)6301 Web https://www.decn.co.jp

オンラインサービス  
 記事検索・紙面PDF  
 ご購読者は無料で  
 会員登録できます。  
 https://www.decn.co.jp/online-service

## 建築士法改正の影響は?

### インタビュー

**総合資格学院** 常務執行役員営業本部長 **安島 才雄氏**  
 常務執行役員講習システム開発部部长 **佐藤 拓也氏**

建築士の安定的な確保を目的とした改正建築士法が2020年3月に施行され、2度目となる1級建築士試験の2次試験(設計製図試験)の合格者が24日、発表される。受験機会の早期化で学科試験の合格傾向が変化。新型コロナウイルスを踏まえ



安島本部長

法改正の影響は、安島氏 2年間の実務要件が無くなった影響で、合格者の属性が大きく変わった。学科試験の合格者を見ると、法改正前はゼロだった23歳以下が、20年度は10・6%に、21年度は14・7%に増えた。大学の卒業生や大学院生、さらには専門学校生からも合格者が出ている。ある大手ゼネコンの新人社員は本年度、平日に当学院の講座を受講し、全員が学科試験で合格した。こうした取り組みが、ゼネコンやハウスメーカー、地方ゼネコンなどで加速すると想定している。

## 23歳以下の増加が顕著に



佐藤部長

佐藤氏 新型コロナウイルスなど社会情勢の変化を踏まえた対応が進んでいる。21年度は学科試験は、換気量や汚染空気の流れなどの設問が目立った。特に顕著なのが設計製図試験だ。21年度は、住戸ごとにテレワークスペースを設けるなど在宅勤務を想定した計画が出題された。共用空間のスペースも求められた。

## ニーズ読み解きの確指導へ

### 20年3月施行の改正建築士法とは

受験機会の早期化を図るため1級建築士の受験要件を見直し、実務経験を免許登録要件に変更した。免許登録までに実務経験を積み重ねるため、大学卒業後すぐの受験が可能。合格者は合格後に2年以上の実務経験を積み、1級建築士に登録できる。

実務経験の対象業務も拡大。建築物の調査・評価や建築・住宅・都市計画に関する行政業務などを加えた。建築プロジェクトの多様化・高度化に対応できる建築士の確保を狙う。

## 先進的な環境配慮型物流施設を実現

メッシュ状の日射遮蔽膜で構成したファサード



グッドマンビジネスパークイーストゲートは、千葉県印西市の千葉ニュータウンに位置するグッドマンビジネスパーク・物流施設シリーズの第4号として竣工した。千葉ニュータウン周辺は労働人口が増加しており、都心への交通利便性も高くビジネス効果が高い。本施設は総賃貸面積が約11・7万平方メートルの4階建てマルチテナント型物流施設となる。駐車場、車待スペース、ランパ、トラックベースが効率的に配置され、ワンウェイルートで迅速に搬出入できる機能的な倉庫とした。

### concept View

#### グッドマンビジネスパークイーストゲート

で陰影により表情を変え、夜は執務空間の照明があんどのようにに光り、1日の時間の経過を可視化するデザインとなる。



西側メインエントランスホール

今回の計画では、通常の物流施設とは異なる先進的な環境配慮型の施設計画が求められた。施設計画がエネルギー消費を削減するため、建物消費エネルギーで最も割合が高い倉庫の照明の削減に着目。広い倉庫内で照明を必要とする箇所を絞り、照明器具数を最適化した。用を可能とする照明制御システムを導入した。計画時より入居コストが削減される必要があり、調光により必要となる照明を常時点灯する必要があるため、人感センサーで点滅させて照明消費エネルギーの削減を図っている。

照明制御に加えて、外皮の断熱性能の強化、高効率空調・全熱交換器、太陽光発電を

山下設計 第2設計部主管 渋谷京亮  
 企画開発部 小松耕太

## 街づくりもカルチャーに

### 日建設計が渋谷をテーマにシンポジウムを開催



奥森氏(実行委員会提供)

日建設計の奥森清喜取締役兼常務執行役員都市部門統括は、11月に東京都渋谷区で開かれた渋谷の街づくりをテーマにしたイベント「有識者と共に参加し、街のあるべき姿」で意見交換した。奥森氏は「100年に一度の大改造、今が真ん中くらいで、まだ10年くらいある」と渋谷の現状を指摘。「裏側やシャリオを共有するのが難しい。いろいろな人が渋谷の人にフォーカスを当てて、新しい街づくりのモデルになり、カルチャーになっていく」と述べた。

渋谷未来デザイン(小泉秀樹代表理事)と出版した渋谷の街づくりなどを紹介する書籍『変わり続ける! シブヤまちづくり』をテーマに、「SOCIAL INNOVATION WEEK 2021」(主催・SHIBUYA 2021)の主催者、SOCIAL INNOVATION WEEK SHIBUYA実行委員会)で同日12日にシンポジウムが開かれた。

## 立体アートコンペ「AAC」

### 隼楠さんに最優秀賞

アーバネットコーポレーションは、学生を対象とした立体アートコンペ「アート・ミーツ・アーキテクチャー・コンペティション(AAC)」の最終審査会を東京都内で10月12日に開き、京都市立芸術大学大学院美術研究科漆工領域の隼楠さんの作品「Power of Flower」を最優秀賞に選んだ。

漆を塗って鹿茸を固定した作品で、審査員長を務めた建築家の青木淳氏は「魅力的かつ大胆な、また大変な技術を要する作品」と評した。



隼楠さんと作品「Power of Flower」(報道発表資料から)

優秀賞には東京芸術大学大学院美術研究科工芸専攻の袁方洲さんの「さんすいの間」と、東京工業大学大学院環境・社会理工学院建築学系建築学コースの山口聡士さんの「蜃気回廊」が選ばれた。3作品は東京都板橋区で建設しているマンションのエントランスホールに設置する。

建築設備 あるある 柳

**JABMEE関東 第2回コンテスト結果**

入賞作品は次の通り。作品(応募者)敬称略。

【最優秀賞】  
 ▼自家製は 昔お味噌で 今電気(小野 佐和)

【優秀賞】  
 ▼競技より 会場設備 見る五輪(さくら) (じゅん) (じゅん)  
 ▼休みなく 動く設備へ 動(きん)メダル(エラリー)  
 ▼新人に 親方が聞く テクノロジー(じゅん)

【佳作】  
 ▼お前もか バルブ壊れて 漏れる水(まこ) (まこ) (まこ)  
 ▼機械室 うっとり酔わず 配管美(やじろ) (やじろ)  
 ▼縮めたはず ポケットのネジ 帰宅中(JJJ)  
 ▼利用者の 笑顔が設備の 動力源(SK) (かきん)

▼「久しぶり!」 元カレ取りで 行(くメンテ) (いよかん)

## 住宅建築賞の募集スタート

東京建築士会、22年2月10日まで受け付け

東京建築士会(古谷誠章会長)は、「住宅建築賞2022」の作品募集を開始した。最近3年以内に竣工して、東京圏に立つ一戸建て住宅や集合住宅、併用住宅、大幅な増改築案件、公共建築などが対象。応募作品を設計した建築士資格を持つ建築士会正会員から受け付ける。提出期限は2022年2月10日。課題テーマは「共生系としての住宅」。コロナ禍を踏まえて、共生系としての住宅の価値を問うような建築を評価し、未来に向けた議論のきっかけにする狙いがある。審査員は平田晃久(審査員長)、加藤耕一、曾我部昌史、山田紗子、吉村靖孝の5氏。

書類審査と現地審査を経て、同4月中旬に入賞者を発表する。賞金は住宅建築賞金賞15万円、建築賞7万円。同6月上旬を予定する総会で表彰式を行う。詳細は同会ホームページ(https://tokyokenchikushikai.or.jp)へ。